



NEWS RELEASE

報道機関の皆様へ

2020年7月29日

入試広報部

地域主体で運営できる簡易避難情報発信システム開発



【イメージキャラクター ひなん獅子】
「ひなん獅子」と名付けました。
避難指示する獅子をイメージしています。
イラストはゼミ生と制作しました。

この夏の九州豪雨災害や西日本豪雨等、近年豪雨による土砂災害の被害は甚大です。西日本豪雨後に公表されたわが国の目指すべき社会として、住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、行政はそれを支援するとされており、地域における防災力の強化が求められています。

この地域防災力を強化するため、生物地球学部の佐藤丈晴准教授が、地域主体で運営できる簡易な避難情報発信システムを開発しました。本システムは、写真に示した雨量計と測定制御器から成ります。雨量計が観測したデータに基づいて事前に設定した基準値との比較を行い、注意基準を超過した場合は黄色、危険基準を超過した場合は赤色のランプが点灯し、注意喚起や避難を促すシステムとなっています。100Vの家庭用電源につなぐだけで稼働可能です。

開発のきっかけは、2014年の広島豪雨災害。被災した広島市八木ケ丘団地の町内会は、同じ災害が発生すれば、同じ被害が起きると考え、自治会が独自に雨量計を設置して避難情報を発表する仕組みを作りました。ところが、コストが問題となり、自治会側から佐藤准教授に「コストを一桁下げたもっと簡易なシステムを」と相談があったのを受けて開発に着手。必要最低限の装置に絞ってコストを低減し、3年にわたる試験運用を終えました。

この間、基準を設定する方法、制御システムの開発には、専門の企業との共同研究等で協力いただきました。地域ごとの適切な避難基準の設定に関しては、技術的な知識を必要とするため、住民の皆さんの意向に沿った基準値の設定について相談に応じることにしています。

◆本件に関するお問い合わせ先：

生物地球学部・佐藤研究室（086-256-9592、sato@big.ous.ac.jp）